

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「普通の暮らし+」...入居者にとって望まれた生活の実現、そして地域・職員・入居者間において家族(地域密着)のような信頼関係を構築していくことを理念としている。	地域の方との交流もより深め、理念を促進させていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で本人のしたいこと、考え、悩み等を自然に聞き出す関わり、アプローチ・フォローを心掛けている。それぞれが「まふえー」の一員であることを大事にして信頼関係に努めている。	職員間での意識向上の為、情報の共有の機会を増やしていきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	職員の半数以上が地域住民であり、日頃より地域に理念が浸透していけるような交流がある。また、「まふえー通信」を作成し、行事・活動等の開示により理解をして頂いている。	「まふえー通信」の継続、まふえー行事・活動への参加、その他の交流を深めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の散歩時にはよく挨拶を交わしている。また、近隣から遊びに来られたり、花や食材の差し入れ頂き、気に掛けてもらっている。グループホームからは、手作りのペーパークラフトを地域に配布し喜んでもらっている。回覧板を順番で回している。	近所・地域の方が立ち寄りやすい雰囲気を再度検討していきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、年1回の会合に参加している。地域からは、行事等のお誘いを受け、参加させてもらっている。また、直接、職員を介して交流を深めている。消毒や整備など施設を空けなくてはならない時は、「老人いこいの家」を貸してもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当事業所を相談窓口を置き、介護の質問、入居依頼、介護保険の説明等が出来るよう設けている。AEDの設置により地域事情を回避していけるようにしている。また、職員が操作を熟知しており緊急対応、貸し出しできるようにしている。また、地域就業率が良くなる様、地域住民の雇用を率先している。		地域貢献の在り方を色々な観点で考えていきたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を受け、再度、話し合い当グループホームの方針も踏まえた取り組みを行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、よりサービスの向上に努めている。		地域包括支援センターにも積極的に声掛けしていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の疑問等に関しては、市町村及び厚生労働省に随時行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度において、随時、閲覧できるように詳細を綴った文面を作成している。		権利擁護・成年後見制度における勉強会を行い、より詳しい知識を持つ。外部の研修にも積極的に参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づく勉強会を行っている。		事例検討の機会を充実させ、虐待の防止に努めていきたい。また、外部の研修にも積極的に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には、重要事項説明書・運営規定・利用契約書を用い、本人及び家族に説明を行い、納得・同意を得ている。また、フェイスシートを使用し情報を元に十分な話し合いをおこなっている。解約に関しては、可能な範囲を模索していき、柔軟な対応を心掛けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>詰め所横に、意見箱の設置。代表者の携帯番号を家族に教え、直接、意見を述べられるシステムを作っている。また、重要事項説明書にて記載している「行政への申し立て」が出来るよう説明している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理においては、管理規定を作り、尚且つ、金庫での管理、また、その金庫は、一部職員のみ取り扱ひ許可にしており、確実に管理出来る様にしている。健康状態において、希望者には、報告等をメール送信出来るシステムを作っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>代表の携帯電話を家族に教え、直接意見を述べるシステムを作っている。また、重要事項説明書にて記載している行政への申し立て出来るよう説明している。詰め所横に意見箱の設置。それらを踏まえ意見を述べやすい雰囲気作りを努めている。</p>	<p>意見が出た際は、役員会議・運営会議を開催して運営に反映させる。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的にミーティングを開催、意見交換・情報の共有等行っている。また、常時、職員からの意見・提案を出せるよう職場作りを徹している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望に応える為、常勤換算5.0以上に設定している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的に入居者の担当を変更し、複数の職員で対応しているようにしている。また、信頼関係を築ける職員の確保に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>求人にあたっては、性別・年齢等を判断材料にはしていない。また、採用後も個々の職員が助け合える職場作りを行っている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育啓発の資料を作成し、随時、閲覧できるようにしている。</p>	<p>勉強会等を開いていき、外部研修等にも参加していく</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等に参加を行っている。また、当社独自の資格取得制度があり、レベルアップがしていける様に配慮している。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護保険事業者の懇談会に定期的に参加しており、交流・意見交換の場としている。また、入居者・職員を交え、他施設との合同行事、イベントの開催にてサービスの向上・質の向上に努めている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>サービス残業をしない・子育て支援などをおこない、ストレスの無い職場作りをしている。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>当社独自の資格取得制度があり、当社にいてことで、個々のレベルアップが可能であり、向上心を持って働ける環境にある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>「フェイスシート」を元に本人より情報収集、及び生活していく上での悩み・不安・求めていきたいこと等傾聴し、一つ一つ解決している。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>「フェイスシート」を元に家族からの情報収集、及び本人が生活していく上での悩み・不安・要望等を傾聴し、一つ一つ解決している。また、家族が本人に支援していきやすいようサポートしている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まです必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の現在の生活状況、心身の状態、家族の力、社会資源、本人・家族が必要としているサービス等を踏まえ、本人・家族に望まれたサービスに近づけている。体験入所も含め、柔軟な対応でニーズに応えている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>出来るだけ入所前に職員が本人・家族との面識を持ち、入居時より安心して生活出来る関係を作る。また、入居者の状況により家族が泊まれたり体験入所出来るようにして、本人の不安を軽減させている。サービス利用についても本人・家族と相談をしながら進めている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者・職員は、共存していく関係であり助け合い・支えあいながら関係の維持・向上に努める。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族は、入居者を支えていく為に情報交換・連絡を取り合い、関係の維持・向上に努める。また、行事・たよみ等の機会を持ち、楽しみの時間を共有。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族・本人が外出、外泊をスムーズに行っていけるよう調整をしている。また、家族が来所、対応困難な場合は、内容によっては、職員が代行している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	入居者が馴染みの関係や思い出の場所が大事にしていけるよう外泊の仲介・送迎している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係が上手くいくよう共に過ごせる時間があり、お互いに気付き、助け合える環境作りに努めている。また、どうしても合わない入居者間においては、職員の仲介・フォローにて関係の維持に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続して関わりが必要な入居者には面会等を行い、安定した生活を送れるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々、接していく過程の中で、本人の意思・意向を導き出し、職員の共有の情報として把握し、また内容によっては家族の協力も受けながら実現に努めている。本人発信での意思・表現が困難な方においては、これまでの生活歴・趣味・趣向・家族からの情報等を踏まえ検討し実現に至る。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>情報提供及び本人・家族からの情報収集を受け、把握。また、本人が生活していく中で随時、収集。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>介護記録及び申し送りノートに記載している内容は、各自、勤務入り時、目を通し把握している。また、その中でも重要事項は勤務者より詳細を伝達・報告している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントの作成、また本人及び家族の意向を以って課題(ニーズ)を明らかにしてサービス担当者会議の開催で意見を集め、介護計画を作成。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的見直しにてモニタリングを行っている。また、本人の状態・要望の変化に応じて新しい課題の抽出、介護計画の作成。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に生活の様子・状態(心身)の変化を残し、職員間での情報の共有を行い、見直しの際、生かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時、家族の状況を踏まえ可能な限り対応していける体制を取っている。入居者の状況において外泊の調整・送迎。理容師の免許を持っている職員がおり、希望者に対して、ゆっく(要望を聞きながらカット(無料))している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎年、保育所より運動会・お遊戯会の誘いを受け参加している。定期的に回覧板が来て地域広報、警察からの注意、ボランティアの講習などの情報が入る。		グループホーム発信の行事・活動等に地域の方を積極的に招きいれていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	3ヶ月に1度、福岡市事業所懇親会に参加し、さまざまな情報を得ている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターと協働している事がない		地域包括支援センターとより積極的に働きかけを行い、有効利用していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者の係りつけ医は、契約時に家族・本人の希望を受け現在に至っている。2週間に1回の往診を受けており、定期の診察及び状態変化、緊急時も含め24時間対応出来るよう連携を取っている。また、本人・家族・Dr・事業所間にて最善の治療が受けられるよう話し合い、対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>高齢者の接し方の資料や個人情報保護規定・ガイドラインの取り決めを行い実践している。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>日々の生活の中で、意志決定の場面を多く作っている。また、選択肢を用い、決めてもらったりしている。自己決定出来る事が共同生活を送っていく上での自信や楽しみとなっていけるよう支援している。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の一日の流れはあるが、個別サービスを充実させる為、職員が入居者の要望に応じて動けるようにしている。また、入居者より自発的に要望を出しやすい環境を作っている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個人が好みの服装やおしゃれする機会を増やしていけるよう外出(散歩も含む)の声掛けやドライブ等を多くしている。理容・美容は、免許を持っている職員がいる為、希望する入居者においては、ゆっく髪型の要望や楽しい話をしながらカットしている。行きつけのお店がある入居者には行けるよう支援している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者間での食事の準備・片付けを助け合って行える環境が出来ている。その他、自然な誘導を行っている。小規模事業所で漁港の利点を活かして刺身など新鮮で美味しい食事の提供を行っている</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品等、個人・家族・Drと相談しながら実現している。その他、制限がある入居者もいる為、一定の配慮をもちながら各入居者、楽しんでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて排泄状況・パターンを把握し、トイレの声掛け誘導を行っている。また、便秘症の入居者などは、排便のマイナス確認をし、Drに相談しながら調整している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、回数・時間の規定の無い入浴が可能である。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各入居者、基本的には1日の流れに添って生活されており、間の時間の使い方はさまざま、休まれたり活動されたりと自由にされている。寝具類は本人・家族の希望に応じて使い慣れた物を使用されたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の流れに付随して役割や楽しみ、気晴らしがあり運動している。職員が本人の気分や状態を見極めながら関わっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望・能力に応じて、金銭管理の範囲を決め、買い物等してもらっている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物など、本人から希望があったり職員から声掛けたりしながら、ほぼ毎日外に出ている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	ドライブ・買い物(遠方)行事・季節ごとのイベント・外食等、積極的に外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・本人の要望受け、電話の仲介、手紙(葉書き)書かれたものを一緒に郵便ポストまで投函しに行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人などが気軽に面会 来所出来る様に、お茶等の提供や公共交通機関の時刻表を掲示し、乗換え時間などすぐに確認できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料にて具体的な行為を把握している。また、どのような状況にあっても、身体拘束を行わないように法規定より職員数を増やし対応している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠を行っている。日中は自由に内と外が行け、洗濯物を干したり取り込んだり、芝生に水をかけたりしている。転倒の危険がある方は職員と一緒に出入りしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングもしくはキッチンに常駐の職員がおり、入居者の所在が把握出来るようにしている。また、複数の職員との連携にて、より安全確保に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の状態を見極めながら共有物品の設置・保管・管理に取り組んでいる。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的(ミーティング)に入居者の状態・状況の共有、対応の確認。また、ひやりはっと事故報告書を用い、リスクマネジメントにて問題の原因、再発防止に努める。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	資料を用い、訓練やマニュアル化を行っている。また、24時間対応のドクターとの契約及び看護師は徒歩圏内の者を雇用し、早急に急変対応可能としている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防局との避難・通報・消火訓練を行っている。また、地域消防団に支援を行い、協力してもらえるようにしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人一人に起こり得るリスクを明確にし、家族への説明・話し合いをして、本人にとって最適な生活が送れるよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック時、いつもと変わりがないか話し掛けたりしながら確認している。バイタル共に異常があれば、Nsを介し係りつけ医へ報告・指示をうつる。状態によっては直接、救急病院へ。随時、職員が意識しながらいつもと変わりないか観察している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに内服薬説明書及び点眼薬説明書を挟んでおり、確認出来るようにしている。処方薬の変更・臨時薬があった際には、申し送りノートへの記載し把握してもらっている。また、変更後の経過、薬の副作用も含めて観察している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質を多く含んだものや乳製品など食材にバランスよく取り入れている。散歩や体を動かす自然なアプローチをしている。また、内服薬も並行して改善に向け、調整している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	2週に1回、歯科往診を受けている。歯科医及び歯科衛生士の指導により、義歯の調整・歯の磨き方等入居者と一緒に清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表により栄養面・カロリー・量の調節を行っている。食事量・水分量・体重は、チェック表にて管理している。また、入居者によっては、食事形態に違いがあり食事摂取量が落ちないように工夫している。		水分量は、全てを把握出来ておらず、最低量を記載している為、今後、検討して具体的な数値を書き込めるようにしていきたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に関するマニュアルを作成し、実施を行っている。また、行政資料等も閲覧できるようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン及び調理器具については、毎日の清掃・消毒を行っている。管理もマニュアル化している。食材については、漁師、農家等より直接仕入れを行い、何処よりも新鮮で安全な食材の利用を行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物前には、ウッドデッキに芝生、周囲には、花や野菜を育てている。玄関前の駐車場も広く来所がしやすくなっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物周囲は、窓が多くて、光が入りやすく、外の景色もよく季節感を十分に味わうことが出来る。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ・玄関先・テレビ周辺は共有スペースとしてまた、個人として有意義に使われている。		今後も、より有効的な空間作りを検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染み、思い出の物を居室に持ち込み、居心地の良い空間作りとしている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を設置し、外気に合わせ温度調整している。換気扇は、24時間可動しており、定期的に換気扇の掃除している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、広々としており、車椅子・歩行器の方も移動がしやすい。周囲には、手すり、リビングの間々には、柱もあり掴みながら移動出来るようにしている。床は、カーペットにて転倒をダメージを抑えている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の能力を各職員が把握し、入居者が持っている機能を最大限活かせるよう支援している。日々の経過、調子により不可の加減を調整している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	ベランダ(ウッドデッキ)では、お茶やバーベキュー、行事の際、洗濯物を干している。芝生、建物周囲では、ベランダ同様、洗濯物干し、バーベキュー、花、野菜、水遣い等多目的に使用している。		外に出るきっかけ作りとして、多くの活用方法を考えていきたい。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設ではなく、在宅での普通の暮らしを実践いたします。 入浴は、回数・時間を決めることなく支援します。 食事は、漁師・農家から直接仕入れ、より新鮮なものを提供いたします。 自由に外出できるよう支援いたします。 法基準以上の職員数で支援し、より手厚い介護サービスが提供できます。